

2009年2月 第322号



スズキ労連

2009年
2月号

静岡県浜松市南区増楽町20
電話(053)447-3079
スズキ関連労働組合連合会
発行人 加藤 幸博
編集人 光田 玄

この難局を乗り越えるために…
いま私たちができることを考えよう!

一致団結して
危機突破!

スズキグループの一員として スズキ製品の拡販に取り組みましょう!



SX-4を中心とした小型車の拡販が特に重要です。
自信を持ってスズキが誇る世界戦略車を勧めましょう。

昨年秋以降の急激な景気後退で、世界的に自動車市場が冷え込み、スズキグループも国内外で大幅な減産や売上減を強いられており、かつてない危機的状況に陥っております。この厳しい状況下でグループが生き残るには、屋台骨である国内販売の活性化が不可欠です。

「一致団結して危機突破」するため、グループの全員がセールスとなり高い拡販意識を持ち、ご自身や家族・親戚はもとより、友人・知人にスズキ製品を紹介し、1台でも多くの販売につなげましょう!

各会社では、従業員車両購入制度やスズキ製品紹介制度を設定しております。詳細は会社総務または労働組合までお問い合わせ下さい。



第59回中央委員会開催!

今後も高い意欲と活力を持って働くために…”2009年総合生活改善”取り組み方針を決定

スズキ労連は2月3日(火)18:00よりスズキ労働会館大ホールにて第59回中央委員会を開催いたしました。各加盟労組から中央委員81人、傍聴者35人が参加し、「2009年総合生活改善の取り組み方針(案)」の審議を行い、満場一致で決定いたしました。併せて「第22回参議院議員選挙候補者推薦の件」の審議では、自動車総連顧問、現民主党政調会長である直嶋正行候補の推薦が、全員の盛大な拍手のもと承認されました。各労組は今後この方針に基づき要求内容を機関決定し、会社側に要求書を提出し交渉を行ないます。

今回の春の取り組みは、非常に難しく、厳しい取り組みとなることは言うまでもありません。例年以上に全組合員が共通認識に立ち、職場一体となった取り組みが何よりも重要となります。今後の各労組での職場討議には、情報・情勢の認識を合わせた上で皆さんの積極的な参画をお願いいたします。



冒頭の加藤会長の挨拶。厳しい環境下において、スズキグループ全員の知恵と力で難局を乗り越えるために更なる連帯強化が呼びかけられた。

応募期間 5/11まで
組合事務所
または
書記局まで

20th 連合20周年

第6回 連合・ILEC
幸せさがし文化展

写真・絵画・書道・俳句・川柳

働く仲間とその家族の公募展

作品大募集!

あなたの自慢の作品を応募してみませんか? 作品各部門にはさまざまな賞が設定されており、入賞すると記念品や賞金が贈呈され、作品が展覧会で一般公開されます。ちなみに第5回の文化展ではスズキ労連の応募作品から写真部門4点・俳句部門2点が入賞しました。

募集要項の詳細は組合事務所または書記局まで。

主催: 連合・ILEC
後援: 退職者連合
協賛: 中央労福協・労金協会
全労済・財団法人総評会館
協力: NHK学園



各種優待契約施設の割引券は労連ホームページの「スズキ労連の福利厚生」よりプリントアウトできます。
パスワード: saw2007

【スズキ労連】機関誌に対するご意見・ご要望がございましたら編集部までお気軽にお寄せ下さい。

編集部 〒432-8062 浜松市南区増楽町20(スズキ労働会館内)
TEL.053-447-3079 FAX.053-440-2838
e-mail: mitsuda@suzuki-union.or.jp

◇スズキ労連ホームページ◇ <http://saw.gogo.tc/>
*スズキ労連の福利厚生・スズキ労連機関誌
共通パスワード… saw2007

【編集後記】
あまりいいニュースがないですね…。でも下ばかり向いてはダメなので、どんなときも元気に活動しています。
さてILEC文化展に出展して「幸せさがし」でもしてみますか(次長2)

「2009年総合生活改善の取り組み」スローガン採択
一致団結! 難局を乗り越え、
安心な生活を築こう!

《スズキ労連 2009年総合生活改善の取り組み 具体的要求内容抜粋》

- 賃金引上げ
 - 平均賃金引上げ
賃金制度維持分+賃金改善分
各組合は目指すべき内需主導の経済への転換と組合員の生活を重視するとともに、更なる意欲活力につながる人への投資等、様々な観点から総勘案し、4,000円の賃金改善分を設定することを基本とします。
 - 個別ポイント絶対水準要求
・現行のポイント水準を基準(35歳・高卒・勤続17年・技能職く但し、製造部門以外はそれに準じた職種>4人世帯)とし、賃金改善分については、各組合の判断により設定します。
・各組合は、以下の基準を参考に自社に合った水準への引き上げを目指すこととします。
基準Ⅰ 292,000円 基準Ⅱ 261,000円 基準Ⅲ 235,000円
 - 企業内最低賃金協定の締結
18歳…154,000円以上
 - 年齢別最低保障賃金
20歳 159,000円 25歳 178,500円 30歳 212,000円
35歳 235,000円 40歳 253,500円 45歳 262,500円
- 年間一時金
 - 月数 年間5ヵ月以上を基準とする。販売部門については昨年獲得実績以上を基準とする。
 - 要求基礎 要求基礎は、賃金引き上げ後の基準内賃金とする。
 - 最低保障制度 40%以上を基本とする。
- 労働時間短縮
 - 有給休暇取得向上の取り組み
 - 所定外労働時間の削減に向けた取り組み
 - 所定労働時間1952時間未達組合は、その達成に向けて取り組む。
 - 時間外割増については、総合生活改善の取り組みにおける団体交渉、労使協議等の場において、自動車産業を取り巻く環境、法改正の内容、連合の方針などを踏まえた労使議論を行なう。
- 政策制度課題への取り組み
 - 緊急的な総合経済対策の実施
(景気・消費回復・雇用・生活防衛)
 - 納得できる自動車関係諸税の実現
 - 将来に向けた抜本的な政策転換の実現

【取り組み日程】
●要求提出
・スズキ労組 2月18日(水)
・部品・輸送部門 2月25日(水)
・販売部門 2月末まで
●統一交渉日(販売部門除く)
第一回目 2月25日(水)
(2回目以降は交渉ゾーンを設定します。)
●回答指定日
業種ごとの課題を整理した上で、製造部品輸送部門は3月内決着を、販売部門は4月内決着を基本に取り組みます。

加藤会長 挨拶(要旨)



本日の中央委員会は、2009年春の取り組み方針案を決定する場と同時に何としても、この難局をみんなで乗り越えていくという、強い思いを確認していく場としていきたいと思ひます。

<取り巻く環境>

アメリカ発の金融危機は、昨年後半から急速なスピードで経済危機へと深刻化し、世界経済はかつてないほどの危機的な状況に直面しています。そして、この急激な経済環境の悪化が、国内外の自動車産業をはじめとした、ものづくり産業を直撃し、職場においては減産による工場応援や勤務形態の変更・一時帰休などを行うなど、働く環境面でも大きな影響を与えています。

また先日、国際通貨基金(IMF)が発表した2009年の世界経済見通しは、この60年間で最も低い0.5%であり、国別においてはアメリカが▲1.6%、ユーロ圏が▲2.0%、そして日本は更に低い▲2.6%と外需に依存してきた日本経済は、先進国の中でもとりわけ厳しい見方をされています。こうして、未だに景気低迷の底の深さが見えないだけに、これまでとは異なる環境下であると捉えています。

<自動車産業の状況>

2008年の国内四輪生産台数は1,156万台(前年比▲0.3%)と2002年から7年連続で雇用の目安である1,000万台を上回るとともに、3年連続して1,100万台を超えました。しかし、その中身は、前半が堅調に推移したための数字であり、10月以降は10月が前年比▲7%、11月は前年比▲20%、12月は前年比25%、と深刻さを増し、2009年の見通しも前年比で20%減の900万台を割り込むとの予測さえ出ています。

また、自工会による2009年の国内需要の見通しも、5%減の486万台で、1990年の777万台から比較すると約6割程度と、低迷する国内市場の活性化も引き続き大きな課題となっています。二輪においても四輪同様の状況にあり、2008年の国内生産台数は、前年比▲27%の122万台と3年連続してマイナスの状況であり、月別でも16ヵ月連続で前年比を下回る状況が続いています。また、2007年まで70万台程度あった国内需要も、2008年は▲21%の57万台、そして、2009年の見通しでは▲13%の49万8千台と二輪・四輪ともに厳しさが深まっています。

<スズキグループの状況乗り越えるには>

私たちスズキグループは中間決算の発表時に、売上げ・利益の通期見通しを減収・減益とし下方修正をしました。更に、10月以降も想定を超えた世界経済の低迷や円高により、我々の予想を遥かに超えたスピードで事業環境の悪化が進んでいます。

こうした状況の中で今、私たちに大切なことは現実に起こっている状況を客観的に捉え、そのことに対して正面から向き合い、その上でスピード感と柔軟性を持ち様々な対応を図っていくことです。また、現在の経済状況の予兆は以前からあったものの、実態経済に大きく影響を及ぼしたのは、まだ僅か3ヵ月程度であり、今後この状況が長期化した時を念頭に置いて取り組みを進めていくことが肝要です。

その対応するベースは、職場を守り生活を守り抜くスタンスであり、その基本的な姿勢を強く持って何事も対応を図っていくことであると考えています。また、日々の取り組みとして、守るべきものは守り・変えるべきところは変えていくことが必要です。守るべきは、安全やコンプライアンス・人材育成、技術の伝承、職場のコミュニケーションという基本部分であり、変えるべきは為替が現状の中でも耐えていくことのできる体質の強化やコスト意識、仕事の見直しなどを果敢

に進めていくことであります。

また一方で、今回の金融危機や経済危機が、これまでの市場が万能という自由主義に急ブレーキをかけたことは、人として生きるという点において大きなチャンスとして捉えることもできます。ものの見方や考え方を価値観を変えていくことも、この危機を乗り越えていくための大きな要素であり、物質的な豊かさの追求から心の豊かさに向けての活動を進めていきたいと考えています。

さて、秋田県議会でこの1月14日に、秋田県民と秋田県に事業所がある事業者を対象に平成13年以前の車を、環境適合車に買い換えた場合に車両本体価格の5%をキャッシュバックするという制度を新設しました。こうして各自治体としても働く者の雇用確保や企業の下支えに向けて様々な対応を始めています。

自動車総連も、こうした動きに対して産業として連携を強めていくことにしていますが、スズキグループで働く自分たちもスズキ製品拡販に向けて何が出来ることを自ら考え、行動を起こすことが必要であり、知恵を出し合い取り組みを進めてまいります。

<組合員の相談窓口の強化>

生産の減産によって残業や休出が無くなり、また一時帰休なども発生する中で、組合員の生活も厳しくなっています。中でも、残業や休出を前提に住宅ローンなどの借入れのある人については、生活の見直しが必要になっている可能性があります。

スズキ労連は、コンプライアンスや職場での悩みに対して、いち早くフリーダイヤルによる労働相談を開設し対応を図ってきましたが、今後は生活相談に対しての強化を図っていく必要性を強く感じています。各組合においても、人によって事情が異なることから、きめ細かい対応をお願いするとともに、労連としても一人で困り、悩んでいる人たちに対して、相談窓口の幅を広げて対応してまいりたいと思ひますので、各組合においても更に踏み込んだ連携をお願いいたします。

<春の取り組みに向けて>

この春の取り組みにあたり、上部団体である連合やJC、自動車総連は、その検討過程の中で日々、組合員の雇用と生活に対する不安が急速に高まり、要求水準の是非を含めて議論を積み重ねてまいりました。

しかしながら、厳しさが増す産業・企業実態を直視しつつ、内需主導の経済構造に転換するためには、これ以上の景気の悪化に歯止めをかけていくという、労働組合の社会的責任というマクロの観点、組合員の暮らしを守るという観点、人への投資を重視する観点から賃金改善に取り組むことにしました。

また、スズキ労連においても、これまで職場実態を踏まえた責任ある要求姿勢で、交渉に臨んできた長年の経過の中で、極めて難しい論議を重ねてまいりましたが、厳しい環境を認識した上で、連合や自動車総連の一員として共闘に参加し、できる役割を果たしていくこととしました。この間の、真摯な検討と論議に対して心から感謝を申し上げます。

しかし、この春の取り組みは、産業・企業として生産・販売・収益・雇用などが深刻化する中で、数字的には極めて厳しい交渉が予想されます。歴史的な転換期の今交渉にあたり、労使が永続的な働く者の生活の安定と企業の持続、人の活力という共通のテーマに沿って、率直かつ誠実な意見交換をしていただきたいと思ひます。

厳しい環境であればあるほど、労働組合の役割と責任は大きく、この状況の中で、組合役員をしているということに責任と誇りを感じ、取り組んでいきたいと思います。また、所定労働時間短縮についても、進展に向けて環境変化を踏まえた論議を進めてまいります。(次の頁へ)

<政策制度改善の取り組み>

今回の経済状況に対して、よく100年に一度という表現が使われます。経済状況が100年に一度かどうかは別として、100年に一度くらい起こっていることがあります。それは、国民が政治に対して本気で怒っていることです。

本年9月までには必ず行われる衆議院選挙において政治を変え、これまでの弱肉強食の流れから人間尊重と希望の持てる社会に変革していきたいと思ひます。

また、こうした経済状況の中で市税は大幅に減収になることは確実であり、地方行政の役割と責任はますます大きくなっています。地方議会にも私たちの代表を議会に送り出し、地域からも公平・公正で安心できる社会をみんなで築いていきましょう。

<最後に>

最後に、本年はスズキグループにとって過去に経験の無い、多くの困難と課題にチャレンジしていくことになります。スズキ労連全員の知恵と力で、職場の雇用と生活を守り高めていくための活動を展開し、「何としてもこの難局を乗り越え、安心な生活を築いていく」このことを確認し合うとともに、皆さんのご支援とご協力を重ねてお願い申し上げ、執行部を代表しての挨拶といたします。



根木事務局長 眞子事務局長 小杉中執 山本正中執

【報告承認事項】(報告者)

- ①中間活動経過報告(根本事務局長) **拍手にて承認**
- ②中間会計決算報告(眞子事務局長) **拍手にて承認**
- ③中間会計監査報告(嶋津会計監査人) **拍手にて承認**

【議件】(提案者)

- ①「2009年総合生活改善の取り組み方針(案)の件」(小杉中執) **挙手にて承認**

質問(小玉中央委員<スズキ部品秋田労組>)	執行部答弁
平均賃金引上げは「様々な観点を総合勘案した上で賃金改善分4,000円を基本」としているが、企業業績を勘案し、取り組まないことも可能か?	取り組みは各労組の判断によるが、今回は、個別企業の論理を超え、労働界全体で内需主導の経済への転換を図るための取り組みと認識し、各労組とも社会的役割を果たして欲しい。

- ②「第22回参議院議員選挙候補者推薦(案)の件」(山本正中執) **拍手にて承認**

【各委員の皆さん】(☆印は委員長)

議長 長:藤井清(スズキ労組豊川支部)・柴田清孝(岐阜スズキ労組)
資格審査委員:☆太田賢司(エステック労組)・高橋直也(スズキ輸送梱包労組)
山本淳(スズキ部品富山労組)・佐貫武志(遠州精工労組)
議事運営委員:☆武藤憲司(スズキ労組)・山村直広(平岡ボデー労組)
中村淳二(スズキ精密労組)・平石隆史(浜松パイプ労組)
書記:林清隆(スズキ販売労組)・青葉美奈子(スズキ労連)
司会:番場健一(スズキ新潟販売労組)

ご来賓紹介

各級選挙必勝に向けた決意を込めてご挨拶をいただきました。



左から
第45回衆議院選挙立候補予定 民主党静岡県第3区総支部長 小山展弘様
第45回衆議院選挙立候補予定 民主党静岡県第7区総支部長 齊藤進様
第45回衆議院選挙立候補予定 民主党静岡県第8区総支部長 磐田市議会議員選挙立候補予定(前ヤマハ労連会長) 松野正比呂様

スズキ労連 組織内議員「田口 章」は考える。

DMV(デュアルモードビークル)

《田口章ブログ2月1日記事より抜粋》

DMV(デュアル・モード・ヴィークル)を見に、天竜浜名湖鉄道の三ヶ日駅へ。子どもよりも私のほうが喜んで見えました。私は子どもの頃から「乗り物好き」で、それが高じて今の会社に入ったようなものです。幼稚園時代の将来の夢は「タクシーの運転手さん」と「自衛隊」でした…^^

さて、DMVについてはマスコミ報道されているので、ここでは多くは書きませんが、政治的に見れば、第三セクター「天浜線」には、多額の税金を投入していますので、公共交通機関としてのあり方をしっかり検討していかねばなりません。

これも含めた市全域の「交通政策」は、都市部から中山間地までをあわせ持つ浜松の大きな課題のひとつです。浜松市は平成21年度に「総合交通マスタープラン」を策定します。他都市に例のない「総合交通政策」を考えることとなります。

(写真上…三ヶ日駅でレールに乗るところ)

(写真下…レークサイドウェイを走るDMV。撮影は子ども)



田口議員のマスコットキャラクターが生まれました。

浜松市議会議員「田口 章」です。民間企業23年間のサラリーマンの視点で、企業人として、生活者として、10年、20年後の浜松のために、身近な政治改革にチャレンジします。

「おもしろきこともなき世をおもしろく」
「今より早いときはない」がモットーです。
浜松市議会議員 田口 章

田口章のブログ 「創ろう! 元気な浜松」 <http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/>

浜松市政から身近な政治問題、プライベート(?)まで田口が気にしていること、考えていることがよく分かります。コメントも書き込めますので、皆さんのご意見をどしどしお寄せ下さい!